

# 1-2. 第6期基本計画を構成する目標について

- ・第6期基本計画の構成は下表のとおりである。
- ・第1章で基本的な考え方を示し、第2章で「Society5.0の実現」に向けた大目標を3つの節で示されている。
- ・指標の変化の要因等を分析するにあたり、11の項等では「あるべき姿とその実現の方向性」として、目標が定められており、これらを中目標(あるいは分析の対象の単位としての「テーマ」)に相当)とする。

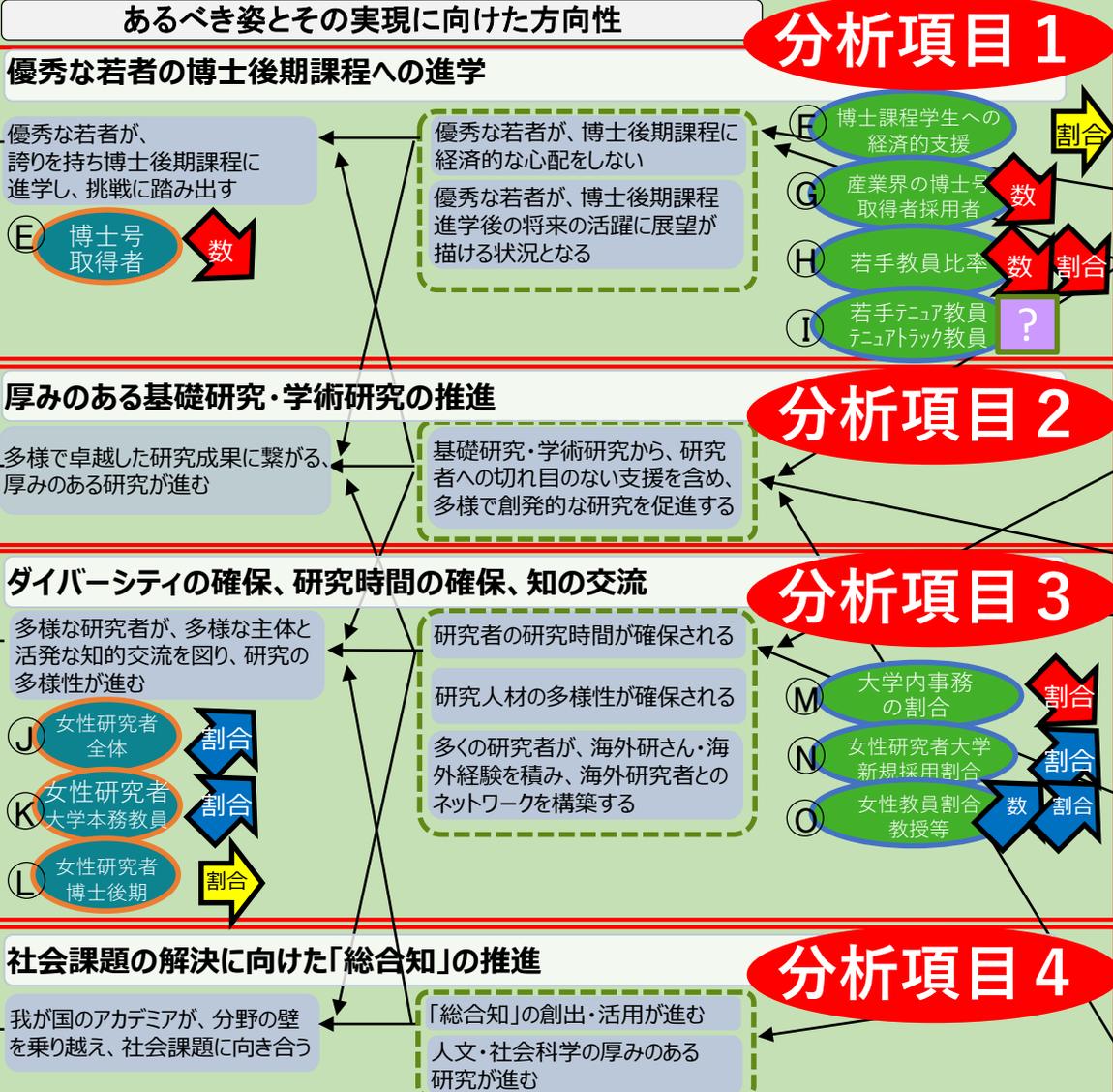
章	節	項
第1章 基本的考え方	1. 現状認識	(1) 国内外における情勢変化 (2) 情勢変化を加速させた新型コロナウイルス感染症の拡大
	2. 「科学技術イノベーション政策」としての第6期基本計画	(1) 我が国の科学技術基本計画に基づく科学技術政策の振り返り (2) 25年ぶりの科学技術基本法の本格的な改正 (3) 第6期基本計画の方向性
	3. Society5.0という未来社会の実現	(1) 我が国が目指す社会(Society5.0) (2) Society5.0の実現に必要なもの (3) 我が国の価値観の世界への問いかけとSociety5.0
第2章 Society5.0の実現 に向けた科学技術・イノベーション政策	<b>大目標 (3 大目標)</b> 1. 国民の安全と安心を確保する 持続可能で強靱な社会への変革 我が国の社会を再設計し、地球規模課題の解決を世界に先駆けて達成し、国民の安全・安心を確保することで国民一人ひとりが多様な幸せを得られるようにする。	<b>中目標 (11 テーマ)</b> (1) サイバー空間とフィジカル空間の融合による新たな価値の創出 (2) 地球規模課題の克服に向けた社会変革と非連続的イノベーションの推進 (3) レジリエントで安全・安心な社会の構築 (4) 価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成 (5) 次世代に引き継ぐ基盤となる都市と地域づくり(スマートシティの展開) (6) 様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用
	2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化 多様性や卓越性を持った「知」を創出し続ける、世界最高水準の研究力を取り戻す	(1) 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築 (2) 新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進) (3) 大学改革の促進と戦略的経営に向けた機能拡張
	3. 日本全体をSociety5.0へと転換するため、多様な幸せを追求し、課題に立ち向かう人材を育成する	一人ひとりの多様な幸せと課題への挑戦を実現する教育・人材育成
第3章 科学技術・イノベーション政策の推進体制の強化	1.	知の価値の創出のための資金循環の活性化
	2. 官民連携による分野別戦略の推進	
	3. 総合科学・イノベーション会議の司令塔機能の強化	(1) 「総合知」を活用する機能の強化と未来に向けた政策の立案 (2) エビデンスシステム(e-CSTI)の活用による政策立案機能の強化と政策の実効性の確保 (3) 統合戦略の策定と基本計画に連動した政策評価の実施 (4) 司令塔機能の実効性確保

# 4-1. ロジックチャートを用いた分析方針の整理

特定テーマ「研究環境の再構築」については、ロジックチャートを踏まえると大きく分けて下図の4つの分析項目に分けられる。指標の変化の要因等を分析するにあたっては、このような分析項目に沿って進めることが適切とも考えられるが、この点について伺いたい。分析項目ごとに、ご議論いただきたい論点は、次ページ以降のとおり。

**大目標**  
多様性や卓越性を持った「知」を創出し続ける、世界最高水準の研究力を取り戻す

**中目標**  
(1) 多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築



**具体的な取組**

- ① 博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの拡大
- ② 大学等において若手研究者が活躍できる環境を整備
- ③ 女性研究者の活躍促進
- ④ 基礎研究・学術研究の振興
- ⑤ 国際共同研究・国際頭脳循環の推進
- ⑥ 研究時間の確保
- ⑦ 人文・社会科学の振興と総合知の創出
- ⑧ 競争的資金制度の一体的改革



# 4-3. 分析項目1に関する論点

凡例

- 参考指標 (青い楕円)
- 主要指標 (緑色の楕円)

●分析項目1を深掘分析するための論点としては以下の通り。

## ○論点1-1: 補完する追加指標について

- ・「博士後期課程に経済的な心配をしない」(経済的支援)の進捗を把握する指標として、「生活費相当額を受給する博士後期課程学生」が主要指標に位置付けられている。さらに補完する追加指標として「競争的研究費における(RAとしての)若手研究者等への研究人件費の支出状況」等が考えられるかどうか。
- ・「将来の活躍に展望が描ける状況となる」(キャリアパスの拡大)の進捗を把握する指標として、「産業界による理工系博士号取得者の採用数」、「40歳未満の大学本務教員の数」及び「35-39歳の大学本務教員に占めるテニュア教員及びテニュアトラック教員の割合」が主要指標として位置付けられている。  
それぞれ、博士取得後の産業界およびアカデミアへの正規雇用のキャリアパスの状況を示す指標となる。その際、追加で検討する状況として、URAや高度な技術専門人材へのキャリアパスも考えられるがどうか。また、補完する追加指標として「大学・企業等のセクター間を移動する研究者数」等が考えられるがどうか。

## ○論点1-2: 施策群の効果の把握等について

- ・指標や指標の組み合わせにより、「①博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの拡大」や「②大学等において若手研究者が活躍できる環境を整備」に関する施策の効果を測ることや、これらの施策の強化や追加の必要性を推し量ることが適切といえるか。不十分であるとすると、ほかに、どのような指標の整備や施策群の分析アプローチ等が適切といえるか。

## ○論点1-3: ロジックチャートについて

- ・(基本計画の記載を踏まえ、)ロジックチャートの組み方自体も適切といえるか。不十分な点がないか。

中目標

環境の再構築  
多様な卓越した  
研究を生み出した

### 分析項目1

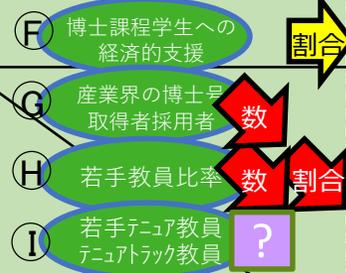
### 優秀な若者の博士後期課程への進学

優秀な若者が、誇りを持ち博士後期課程に進学し、挑戦に踏み出す



優秀な若者が、博士後期課程に経済的な心配をしない

優秀な若者が、博士後期課程進学後の将来の活躍に展望が描ける状況となる



### 具体的な取組

①博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパスの拡大

②大学等において若手研究者が活躍できる環境を整備

# 4-3. 分析項目2に関する論点

●分析項目2を深掘分析するための論点としては以下の通り。

## ○論点2-1:補完する追加指標について

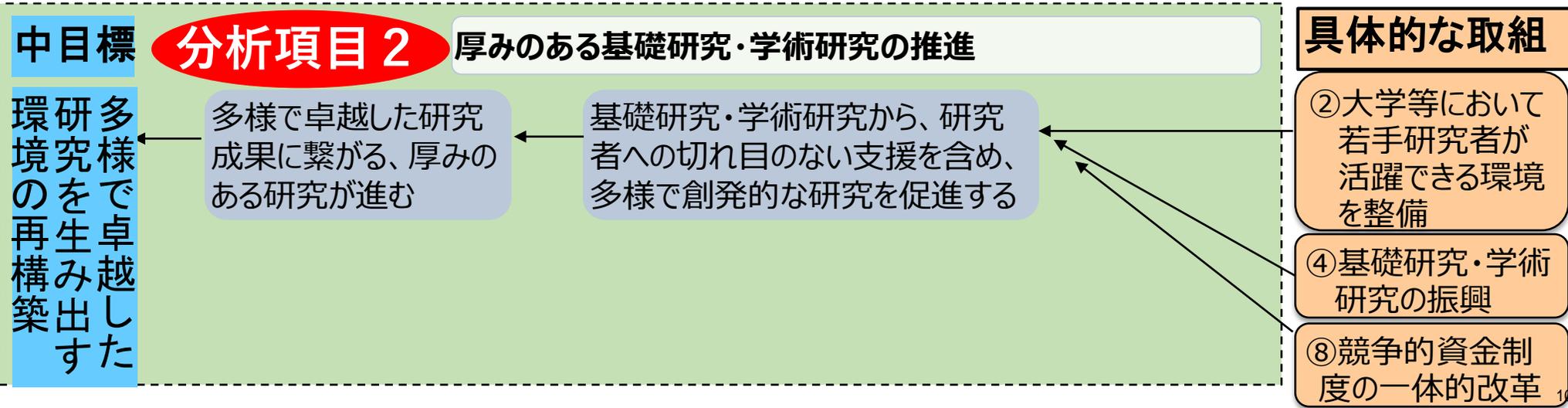
- ・本分析項目について、基本計画において明示的に指標が位置づけられてはいない。本論点の進捗を把握する追加指標として、「創発的・多様な研究への研究費の推移」、「若手研究者への研究費の推移」、「若手研究者による論文数」等が考えられるがどうか。
- ・特に研究費の推移の把握については、e-CSTIの活用を検討すべく、CSTI事務局内で検討を進めてはどうか。

## ○論点2-2:施策群の効果の把握等について

- ・指標や指標の組み合わせにより、「②大学等において若手研究者が活躍できる環境を整備」や「④基礎研究・学術研究の振興」、「⑧競争的資金制度の一体的改革」に関する施策の効果を測ることや、これらの施策の強化や追加施策の必要性を推し量ることが適切といえるか。
- 不十分であるとすると、ほかに、どのような指標の整理や、施策群の分析アプローチ等が適切といえるか。

## ○論点2-3:ロジックチャートについて

- ・(基本計画の記載を踏まえ、)ロジックチャートの組み方自体も適切といえるか。不十分な点がないか。



# 4-3. 分析項目3に関する論点

凡例  
参考指標  
主要指標

●分析項目3を深掘分析するための論点としては以下の通り。

## ○論点3-1: 補完する追加指標について

- ・「研究者の研究時間が確保される」の進捗を把握する指標として、「学内事務等の割合」が主要指標に位置付けられている。さらに、補完する追加指標として「研究時間の増減」、「研究従事者数(FTEベース)」、「研究者の支援体制(URA、エンジニア等)」等が考えられるがどうか。
- ・「研究人材の多様性が確保される」の進捗を把握する指標として、「女性研究者の新規採用割合」、「教授等に占める女性割合」が主要指標に位置付けられている。さらに、補完する追加指標として「女性研究者の研究費・論文の推移」等が考えられるがどうか ※なお、女性研究者の活躍促進については、大学等における研究環境の改善に加えて、教育段階からの課題について教育・人材育成WGIにおいて議論が行われているところであり、その結果も踏まえて検討を進める必要がある。
- ・「海外経験を積む、海外ネットワークを構築する」について、基本計画において明示的に指標が位置づけられてはいない。本論点の進捗を把握する追加指標として、「海外への研究者の派遣者数・海外からの受入数」「国際共同研究の研究費」「国際共同論文の割合」等が考えられるがどうか。

## ○論点3-2: 施策群の効果の把握等について

- ・指標や指標の組み合わせにより、「③女性研究者の活躍促進」や「⑤国際共同研究・国際頭脳循環の推進」、「⑥研究時間の確保」に関する施策の効果を測ることや、これらの施策の強化や追加施策の必要性を推し量ることが適切といえるか。不十分であるとすると、ほかに、どのような指標の整備や、施策群の分析アプローチ等が適切といえるか。

## ○論点3-3: ロジックチャートについて

- ・(基本計画の記載を踏まえ、)ロジックチャートの組み方自体も適切といえるか。不十分な点がないか。

